

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

子どもが夢をもち、元気に学校生活をおくり、勇気をもって行動できるようにします。
 生麦小学校のテーマ「元気、勇気、夢いっぱい～思い出づくり～」
【知】楽しく、粘り強く学ぶことを通して、自他のよさや可能性を切り開く子どもを育てます。
【徳】自分も友達も大好きな、思いやりのある子を育てます。
【体】自他の「いのち」を大切に、自ら心と体を鍛える子を育てます。
【公】地域に学び、地域を愛し、生麦のまちと共に生きる子を育てます。
【開】様々な社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<協働して課題解決する力>
 <言語能力>
 <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

かかわり合いを通して明確な考えをもつ力
 自信をもって表現できる力
 自分の夢や将来を語り、何事にも全力で挑戦できる力

中期取組目標

○子どもが笑顔で通える温かい学校を目指します。
 ・子どもが安心して登校し、自分の夢や将来を語り、何事にも全力で挑戦できる環境を作ります。
 ・基礎学力の定着とともに自ら考える力の育成を目指した授業づくりに努めます。
 ・全教職員が一丸となり子どもを支え、子どもの成長を喜び合います。
 ○保護者の気持ちになって、子どもを支える学校を目指します。
 ○地域とともに歩む学校を目指します。
 ・保護者、地域の方々と一緒に、地域ぐるみの教育を実践することを通し、まちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①重点研究「国語」を継続し、生麦の子どもが主体的、対話的に学習する姿を育てる。②主体的な学びの力をつけるため児童が「切実感、必要感をもって学習に臨めるよう授業改善をする。③子どもの「できた」「わかった」という気持ちを大切に。④学びのスタンダードを検討し、全教職員で板書、ノート指導、発問、ICT活用、教室環境の工夫など教員の授業力の向上を目指す。
担当	生きて働く知部会・情報教育

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 令和3年度実施の横浜市学力・学習状況調査では、学習に対する意識に課題があるが、学力値と比べると、全体的に学習意識の値は高く、児童たちは学習することが大切である、という意識はもっている。また、国語の学習については、どの学年でも課題があり、調査からは重要な語句を選んだり、読み取ったりする記述問題に対する底上げが必要であることが具体的な課題として明らかになった。6年生の全国学力・学習状況調査の結果にも同様の現象が現れており、記述問題に対する「無回答」の割合が全体の3割程度あった。
 (2)これまでの学校の取組状況
 重点教科を「国語」に設定し、この教科を中心に単元づくり・授業づくりについての研究を継続している。授業づくりを通して、子どもが「自分の考えを明確に持つ」ことや「自信をもって表現できる」ことができるようにして研究を重ねてきた。各教科では「ふり返り」に特に重点を置き、学習を通して「何ができるようになったのか・わかったのか」を子ども自身が実感できるようにした。また、日々のふり返りを教師が見取り、子ども個々の実態に合わせて、評価、称賛することで、子どもが学習に対する自信を深めることができるようにした。本年度も継続して取組を続け、子どもの学習意識の高まりや自己有用感の向上をめざしている。

今年度の目標

明確な考えをもち、自信をもって自己表現できる子ども・集団の育成

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○子どもが日常生活との結びつきを意識しながら、主体的に学習に取り組み、基礎、基本の定着を図れるように、教材や場の工夫を図る。
 ～具体的取組～
 ・言語能力の向上をめざした作文指導を全校で行う。
 ・読み、書き、計算の基礎・基本の定着を図れるように、朝学習のスキルタイムや家庭学習を活用して繰り返し取り組む。
 ・自分の考えを広げ、学習の理解が深まるように、朝読書の充実を図るほか、学校図書館を活用した並行読書を推奨する。
 ・算数での少人数学習を3年生から行い、四則計算の基礎の確実な定着を図る。
 ・重点研究目標と関連を図り、国語科の学習を中心に、各教科領域の学習においても相手意識と目的意識を明確にした言語活動の場を取り入れ、対話的な学びの場を充実させていく。また、子どもたち自身が学習のつながりを意識できるよう「ふり返り」にも継続して取り組む。
 ・子どもの思考力、表現力の高まり、学習理解の深まりが実現できるようにデジタル教科書やタブレット端末のICT機器の効果的に活用する。
 下半期
 ○上半期の取組をもとに、自分で考え、自分の言葉で表現したり、自分と違う意見に触れたりして、集団として考えをまとめていく力の育成をめざした学習活動を行う。
 ～具体的取組～
 ・既習事項や生活経験に結び付けて考え、問題解決ができるようにする。
 ・学習したことを活用できるように、目的意識や相手意識をより明確にした学習活動を設定する。
 ・自分の思いや考えを形成・表現できるように、身近なことを表す語句などの語彙指導の充実を図る。
 ・文や表を読み取る力をつけることで、心情や物事の変化を適切に理解する力をつける。
 ・相手の考えと自分の考えを比べたり、考えをつなげたりしながら表現できるような学習場面を設定する。
 ・問題や話し手の意図を捉えて聞き、自分の言葉で根拠をもって説明できるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①たてわり活動、異学年交流を行い、子どもが満足感、達成感を得て自己有用感を高められるようにする。②生麦の子どもにあった道徳教育、道徳科の授業をし、子どもが実践につなげられるようにする。③年間を通し人権教育を行い、子どもの実態に合った資料や授業プランを作成し、全クラスで命にかかわる教育を実践する。
担当	豊かな心部会・人権教育・道徳教育

豊かな心に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
 全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果から分析して、以前までは、「自分にはいいところがあるか」という質問に対して、全国平均を上回る児童が、よいところがあると回答していた。また「人の役に立つ人間になりたいと思いますが」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますが」、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問でも、全国平均を上回っていた。この結果から、本校で推進してきた、たてわり活動と異学年ペア活動がこの結果につながる、大きな要因となっていると考えた。
 しかし、昨年度の結果では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますが」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますが」、「将来の夢や目標を持っていますか」のいずれの質問でも、全国平均を下回る結果となった。この結果から、新型コロナウイルス感染防止のために、学校活動が大きく制限されたことも考えらる。特に、本校で推進してきた、たてわり活動と異学年ペア活動が大きく制限され、このコロナ禍において、ほとんど活動できなかったことが、この結果につながったのではないかと推察する。
 コロナ禍においても、本校では重大ないじめ事案や重大な暴力事案がほとんどない。生麦の温かい地域性もあり、素直で心優しい児童が多い。コロナの状況を見ながら、たてわり活動や異学年ペア活動や道徳の指導を通して、児童の豊かな心の育成を目指していく。

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態

今年度の目標

児童一人ひとりが、誰もが安心して学校生活を送るために、他者を理解する態度・自己を理解する姿勢を養っていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○年間を通して計画的にたてわり活動や異学年ペア活動を推進する。
 ○「特別の教科 道徳」の指導を推進し、子どもたちの道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
 ○人権教育を推進するために、年間通じて、職員研修や子どもたちへの講話などを実施する。
 ○全学級の道徳授業公開を年一回以上実施します。その際、時期と内容について共通理解を図るとともに、推進教諭を中心に、「展開案の作成」「模擬授業での検討」を行っていく。
 ○教科書の活用方法や改善点を洗い出し、本校ならではの年間指導計画を作成していく。
 ○Y-Pアセスメントを通して、児童の実態把握を把握し、指導計画を立てていく。
 下半期
 ○上記(上半期)の内容は継続的に取り組む。
 ○アンケートを実施し、いじめの未然防止、早期解決に努めていく。
 ○Y-Pアセスメントを通して、児童の実態把握を把握し、指導計画を立てていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①外遊びを奨励し、基礎体力を高めるために中休みをロングで25分間とる。②感染症の予防のため手洗い、換気、マスクの着用など自ら対策ができるよう集会や朝会などで呼びかける。③保健だよりを活用し、家庭への啓発を図る。
担当	健やか安全部会・体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
 体力・運動能力調査の結果から分析すると、学年ごとの結果にばらつきはあるものの、「体力」に関しては多くの種目で平均近い結果を残すことができている。「ボール投げ」や「上体起こし」を中心に市の平均を超えている学年が多い。これは、生活意識調査の、「体を動かすことが好きですか」の質問に対して、多くの児童が高い自己評価をしていることに起因していると分析できる。実際に休み時間や放課後遊びの様子から見ても外に出て運動をしたり、遊びを通して友達と関わったりすることが好きな児童が多い。
 ケガでの保健室利用はそれほど多くなく、児童数に対して広い校庭という恵まれた環境の中、体力向上が図られているのではないかと考えられる。
 一方で、生活意識調査の「自分のことが好き」の質問に関しては平均とかなりの開きがあり、本校児童の自己肯定感の低さが目立った。また、携帯電話やスマートフォンが長く、睡眠時間も短い傾向にある。授業中に居眠りをしてしまう児童がおり、45分間集中して授業に臨むことができていない児童が少なくない状況も見られる。保護者はコロナ禍という影響もあって、健康面に関しては意識が高いが、朝食を食べてこない児童も何人かいる。給食の食べる量は児童ごとに差が激しく、高学年でも体格が小さい児童が多い。

(2)これまでの学校の取組状況
 委員会活動や体育科学習を中心に運動に親しめるように支援し保健だよりを通して養護教諭から情報を発信することで、家庭との連携を図ってきた。

今年度の目標

児童が食の重要性への理解を深め、健康な生活を営むための基本的な生活習慣を一人ひとりが見直せるように支援、指導し、児童の体力向上を通して健康的な生活を実践する態度を養うことができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○晴れている日は、外遊びを推奨して教師が児童に声をかけ校庭へできるだけ出るように支援する。
 ○放課後遊びで校庭を開放し、児童が外遊びができる場の提供を継続する。
 ○給食時に担任が給食の配膳を指導し、配膳量に偏りのないようにする。児童に配られる給食の量を均等に、食が細い児童へもできるだけ負担にならないように声掛けを工夫する。また、給食部を中心に「食」の重要性が児童に伝わるよう取り組みを工夫する。(ばくばくだよりを教師が読み聞かせすることは継続)
 ○保健だよりの充実。今年度も養護教諭からの情報発信を行い、基本的な生活習慣を整えられるよう情報提供をし、家庭教育の充実させる助けをする。また、学級担任は配付するだけでなく、「保健だより」を通して児童へも健康面等に関わる指導を同時に行い子ども達の意識を高めるとともに、実践している児童を励まし、賞賛することで自己肯定感を高められるよう努める。
 ○体育学習を中心に、運動の楽しさを味わえる授業改善を教師が行う。また、体育部を中心に職員へ情報発信を行う。
 下半期
 ○上記(上半期)の内容は継続的に取り組む。
 ○運動委員会を中心に体力向上を図る取り組みを計画・提案し校内で実践する。
 ○運動会委員会を中心に、運動会行事を活発化させる。
 ○給食委員会を中心に、給食習慣を行い「食」への関心を高める。
 ○年間を振り返り、子どもの様子や成長を保護者、地域に発信し、学校、家庭、地域で子どもの体の育成を考える。
 ○来年度に向けて、子どもの健やかな体の育成のための取り組みを検討する。